

3月31日、名古屋地本は申第10号の「申6号及び申8号の業務委員会議論に対する解明要求について」業務委員会を開催しました。

## 休日に「営業勉強会」「運転訓練会」 何の為の休みなのか！ 乗務報告書、準備時間 かかった時間はすべて労働時間にせよ！

### 1. 申6号「営業勉強会問題について」

(1) 会社は、「営業勉強会」「運転訓練会」の休日出勤に対し「業務指示」「超勤で整理しているから問題ない」と説明しているが、一方的な休日出勤指定は個人の生活設計を無視したものである。休日出勤は指定しないこと。

回答：そのような考えはない。

組合：(2)と同じ議論になるが、会社は休日は何のためにあるのか理解しているのか。

会社：休日に勤務を指定しても法的に問題ない。

組合：休日に指定しなければ業務が廻らない訳でもない。休日は、家庭サービスをする日であり、リフレッシュをする日であり、様々な社会的な付き合いをする日であり、休養を取る日である。

会社：主観、感情で議論されても返答しにくい。

組合：わざわざ、休日に訓練が指定されていると感じている。

会社：ルール上、問題ない。

組合：法律に違反していないから自由に指定をしても良いと考えるのか。休日は会社が定めた休みで、休むためにある。

会社：それは否定しない。

組合：確認する。

(2) 「駅職場における『営業勉強会』『運転訓練会』は休日に指定しないこと」の申し入れに対し「勤務は会社が指定する」と回答している。駅社員が休日に無理矢理、勤務を指定され休日がなくなり、休養及びリフレッシュが取れないと対しどのような見解を持っているか明らかにすること。

回答：勤務は会社が指定する。

(3) 「営業勉強会」「運転訓練会」の設定期間を延長し、駅社員全員を非番に指定すること。また、できない場合は理由を明らかにすること。

回答：勤務は会社が指定する。

組合：この場合は勤務は会社が指定すればいいが、申し入れは設定期間を連続で行えという意味ではなく、皆が非番で出られるように、訓練日を設定することという意味である。

難しい話ではないので検討すること。

- (4)「営業勉強会」「運転訓練会」を場合によっては、隣接駅をまとめて開催すること。  
また、できない理由を明らかにすること。

回答：必要により実施する。

組合：その場合でも休みで訓練が指定されない方法を模索していくこと。

## 2. 申8号「出勤・終了点呼等の準備時間と出区点検時間の見直しについて」

- (1)「乗務報告書の作成にあたって作成時間は超勤扱いとすること」の申し入れに対し会社は「必要な時間は確保している」と回答している。確保されている時間はどのような時間なのか、また何時間なのかを明らかにすること。

回答：必要な時間は確保している。

組合：どの時間で作成するのか。

会社：準備報告時間であり、その時間に作成できないときは超過勤務時間で作成させる。

組合：その時間で確認する。

- (2) 議論の中で、いわゆる「みなし労働時間」「手待ち時間」が発生していると回答している。乗務員勤務制度を提案したときに、労働外時間が発生することを議論したがそのときの議論と矛盾した内容になっている。一行路における「みなし労働時間」「手待ち時間」があるのかを明らかにすること。

回答：保留。

組合：申し入れの意味が分からなかったのか。「みなし労働時間」「手待ち時間」は、国鉄時代の「内達1号」「動乗勤」で運転士の特殊性が議論され、様々な基準が作られてきた。JR移行後に「乗務員勤務改正」が行われ、以前にあった拘束時間中は実際に運転などしていなくても1/6の時間が加算されていたものが廃止された。乗務員勤務改正により全ての時間は実測で決められたのだ。実測して決められ「余分な時間」があるという考え方がおかしいと言っているのだ。

会社：しかし、現実には列車が終着し休憩所まで歩いていくと、労働外時間までに余る時間がある。この時間を「みなし労働時間」という。この時間に報告書など作成してもかまわない。

組合：余る時間がない場合もある。この場合は労働外時間から作成を始めればいいのか。

会社：そうである。

組合：なし崩し的にサービス労働をすることはやめるべきである。

- (3)「出区点検で点検方法、点検箇所を増やすなど変更したときは、必要な時間を付けること」の要求に対し、「必要な時間は確保している」と回答している。点検方法変更・点検箇所増の場合に必要な時間を実測しているか明らかにすること。

回答：必要な調査は行う。

組合：伊那松島運輸区では現場指導で出区点検方法が変更になっている。調査は終わったのか。

会社：問題ない。

組合：問題があるから申し入れているのだ。10分の出区点検時間は、今の点検項目でギリギリの時間である。運転士は早めに出区準備を行い時間に間に合わせている。現実を調査すること。

**声を出さなければ会社のやいたい放題、皆で声を出そう！**

以上